

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2022年6月）**

目 次

<b>ロシアによるウクライナ侵攻</b>	
◆ウクライナ情勢への外交的・経済的対応	2
◆ウクライナへの軍事的支援	3
◆ウクライナからの避難民への対応	5
<b>新型コロナウイルス</b>	
◆6月30日現在の感染情報等	5
<b>内 政</b>	
◆子供手当増額等に関する法案の国会再承認、連立与党内での対立再燃	5
◆政党支持率調査結果	6
<b>外 政</b>	
◆安全保障に関する国際会議「GLOBSEC 2022 Bratislava Forum」	7
◆スロバキア国会副議長等の台湾訪問	7
<b>経 済</b>	
◆5月の物価上昇率	8
◆ロシア産ガス供給量の減少	8
◆家庭向けガス料金引き上げに関するスリーク経済相の発言	8

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

## ロシアによるウクライナ侵攻

### ◆ウクライナ情勢への外交的・経済的対応

#### 【EUの対露制裁第6弾に関するスロバキア経済省の反応（6月3日付経済省プレスリリース）】

EUの対露制裁第6弾において課されたロシア産原油禁輸措置は、スロバキアの燃料市場及び生産に直接影響を与えるものが承認された。スロバキア経済省が求めていたパイプラインを通じた石油輸入の制裁を3年間適用しない経過措置は採用されなかったが、今回承認された制裁は数ある選択肢の中では「最もソフト」なものであった。

ロシア産原油及び石油製品の輸入は、制裁発効後8ヶ月が経過するまでは禁輸対象とはならない。8ヶ月経過した後はタンカーによる原油の輸入が禁止される。8ヶ月経過後の10ヶ月間は、パイプライン経由での原油による燃料や石油製品の製造やそれらの製品のチェコへの輸出が認められる。18ヶ月経過後は、パイプライン経由の原油による国内市場向けの燃料生産のみ認められる。

#### 【ウクライナの穀物輸送支援の検討に関するクメチ副交通・建設相の発言（6月22日付プラウダ紙）】

クメチ副交通・建設相は、スロバキア経由のウクライナ産穀物の輸送回廊を形成することを検討しており、穀物を鉄道でブラチスラバに輸送し、ドナウ川を利用して黒海に位置するルーマニアのコンスタンツァ港に運搬することを想定している。コンスタンツァ港からはアフリカに穀物を輸送することが可能である。クメチ副交通相は、「（スロバキア経由の輸送回廊は）その他の代替ルートと比較して、非常に短く、安価で、環境に優しい。スロバキアは物流面で優れた立地条件を有しており、欧州の鉄道、道路及び河川との接続も良い」と述べた。

#### 【ヘゲル首相の欧州理事会出席：6月23日付首相府プレスリリース】

6月23日、ヘゲル首相はブリュッセルで行われた欧州理事会において、ウクライナ及びモルドバに対するEU加盟候補国の地位付与を歓迎し、「スロバキアは、ウクライナへのEU加盟候補国の地位付与に大きく貢献した。3月にヴェルサイユで行われたEU非公式首脳会合において、スロバキアはウクライナの復興に向けた改革・財政支援策と、ウクライナへのEU加盟候補国の地位付与をEUで初めて提案した。当時、多くの国が同付与に反対していた」と述べた。

ヘゲル首相は、「ウクライナが一刻も早くEU加盟条件を満たすために、ス

ロバキアは自国の改革の経験を共有する。EUは加盟プロセスのハードルを下げることを望んでいない」と述べた。

ドゥレバ首相顧問（ウクライナ担当）は、ヘゲル首相がここ3か月で全てのEU加盟国の首脳と少なくとも2回以上電話会談を行い、ウクライナ支援の必要性について話し合ったことを明らかにした。

#### 【チャプトヴァー大統領のNATO首脳会合出席（6月28日付及び30日付大統領府プレスリリース）】

6月28日、チャプトヴァー大統領はマドリードで行われたNATO首脳会合に出席し、「スロバキアはNATOの完全なパートナーであり、ウクライナへの人道的及び軍事的支援を効果的に行っている」と述べた。

6月30日、チャプトヴァー大統領は、フィンランドとスウェーデンのNATO加盟の手続き開始を歓迎し、「今回のサミットにおける重要な決定であり、NATOの重要性について（加盟手続き開始は）非常に良いメッセージだと考えている」と述べた。

#### 【ミラノヴァー文化相のリヴィウ訪問（6月30日付文化省プレスリリース）】

6月29日、ミラノヴァー文化相はリヴィウを訪問し、チェコ、ハンガリー、ポーランド、エストニア、ラトビア、リトアニア、ルーマニア及びモルドバの文化相とともに、トカチェンコ・ウクライナ文化相との会合に出席し、ロシアのウクライナ侵攻及びプロパガンダに対抗するための戦略について議論した。ミラノヴァー文化相は、「我々は、ウクライナに対するこれまでの支援、芸術家等に対する更なる支援の可能性、文化遺産の保護、プロパガンダからのメディアの保護について議論した」と述べた。

#### ◆ウクライナへの軍事的支援

##### 【スロバキア製自走榴弾砲「ズザナ2」のウクライナへの有償提供：6月2日付国防省プレスリリース】

6月1日、国営企業Konstrukta Defence社（国防省傘下）は、自走榴弾砲ズザナ2の商業的な売却契約に署名した。ウクライナには8台のズザナ2が引き渡される。

##### 【ウクライナへのヘリコプター及び砲弾の供与】

6月15日、ナジ国防相はフェイスブックで、「ブリュッセルで行われた（ウクライナ支援のためのコンタクト・グループ）会合において、自走多連装

ロケット砲グラード用の122mm砲弾、4機のMi-17ヘリコプター、1機のMi-2ヘリコプターのウクライナへの供与をスロバキア政府が承認し、ウクライナ軍に引き渡されたことを発表した。これらのウクライナに対する支援は、これまでの全ての支援と同様に、欧州平和ファシリティの資金が活用されることになる。ウクライナに供与されたヘリコプターは、既にスロバキア軍で運用されており、近代的なUH-60Mブラックホークがスロバキア軍で新たに運用されている」と投稿した。

### 【スロバキアへのNATO軍の配備状況（6月19日付TASR通信）】

6月19日、国防省報道官は、NATO前方展開部隊の枠組みで現在1089名の兵士がスロバキアに配備済みであると述べた。1089名の内訳は、米国354名、ドイツ275名、チェコ246名、オランダ111名、スロベニア103名。スロバキアでは最大3000名のNATO前方展開部隊が活動することが可能である。

### 【ウクライナへの戦車供与の展望に関する国防省報道官の発言（6月22日付プラウダ紙）】

ウェブ・メディア「ビジネス・インサイダー」によると、スロバキア及びドイツは2か月前からウクライナへの戦車供与を計画しているが、スロバキアとドイツとの間の合意の欠如により、ウクライナへの戦車供与が遅れている。スロバキアは、30台のT-72戦車をウクライナに供与する見返りに、ドイツから近代的な戦車を受け取ることを計画している。ドイツは15台のレオパルト2A4戦車をスロバキアに供与することを提案したが、スロバキアはドイツによって供与される戦車の数が不十分であるとの見解を示している。

カカシュチーコヴァー国防省報道官は同メディアに対し、「スロバキアは、チェコや他国が同意したような『2台の戦車をウクライナに供与し、ドイツ又は他国から1台の戦車を受け取る』という形での合意を受け入れることができない。スロバキアは30台のT-72戦車を保有している。スロバキアの戦車大隊は30台の主力戦車を必要としているため、15台のレオパルト戦車では不十分である」と述べた。

同メディアは、「スロバキアは小国にも関わらず、ウクライナに最大限の支援を提供しており、1億5000万ユーロ以上相当の武器の他、スロバキアが保有していた唯一の防空システムS-300を供与した。スロバキアは、ソ連製MiG-29戦闘機をウクライナに供与し、ポーランド及びチェコにスロバキアの領空警備を依頼することを検討している」と報じている。

## 【ウクライナへの追加軍事支援の可能性に関するナジ国防相の発言（6月22日付TASR通信）】

6月22日、ナジ国防相は、「スロバキアはウクライナに対して防空システム『イグラ』及び『クープ』、MiG-29戦闘機、T-72戦車、装甲車等のソ連製の軍装備を供与する用意はあるが、同盟国からの適切な補填が条件である。交渉が行われており、解決策が模索されているが、スロバキアが現在必要としない武器を見つけ出すのはもはや容易ではない」と述べた。

ナジ国防相は、スロバキアが保有する30両のT-72戦車をウクライナに供与する場合の補填についてドイツと交渉していることを認め、ドイツが複数の提案を行っていることを評価した。ナジ国防相は、「適切な補填は、スロバキア軍だけでなく、NATO加盟国としての義務を満たす上でも最低条件である。例えば、重機械化旅団の下で1つの戦車大隊を創設することが求められているが、1つの戦車大隊には少なくとも30両の戦車が必要である。12～15両の戦車を受け取り、30両の戦車をウクライナに供与することはできない」と述べた。

## ◆ウクライナからの避難民への対応

### 【6月30日現在の避難民数等】

- (1) 累計56万1914人がウクライナからスロバキアに入国。直近24時間で2888人が入国。
- (2) 累計31万40人がスロバキアからウクライナに出国。直近24時間で3604人が出国。
- (3) 累計8万3661人が一時的庇護（一時保護）を申請。

## 新型コロナウイルス

### ◆6月30日現在の感染情報等

- (1) 6月のPCR検査に基づく新規感染者数は6802人（5月は8060人）、6月の死者数は47人（5月は183人）。
- (2) 6月30日現在のPCR検査に基づく累積感染者数は179万6554人（前日比+537人）。同日のPCR検査件数は1320件。
- (3) 6月30日現在の累積死者数は2万147人（前日比+0人）。

## 内 政

### ◆子供手当増額等に関する法案の国会再承認、連立与党内での対立再燃（6月23日付当地各紙）

6月22日、国会は、チャプトヴァー大統領が国会に差し戻していた子供手

当増額等に関する法案を再可決した。チャプトヴァー大統領は、国会の決定を尊重すると述べつつ、当初表明していたとおり、同法案の立法プロセスの違憲審査を憲法裁判所に要請すると述べた。チャプトヴァー大統領は、「同法案に基づく子供手当の支給額が12億ユーロにも上ることを踏まえると、予算の責任と透明性に関する全ての憲法上のルールを遵守する形での立法プロセスが必要である。同法案の立法プロセスは憲法に違反していると思われる」と述べた。

与党第3党SaSは同法案に再度反対したが、同第1党OLaNOは極右政党LSNSの支持を取り付けて、同法案を可決させた。LSNSの支持が無ければ、同法案を可決させることはできなかった。同法案を提出したマトヴィチOLaNO代表（財務相）は、記者会見を行い、「同法案を否決させるためのSaSと野党による合意が存在していた。SaSは随分前から繰り上げ総選挙を実施するための言い訳を探しており、できるだけ早くHlas-SDとの連立政権を樹立させようとしているように見える」と述べ、SaSを批判した。

これに対し、SaSは、「同法案の採決に関する野党との取引は行っていない。マトヴィチOLaNO代表が引き続きSaSを攻撃していることを踏まえ、SaSは連立評議会への出席を停止することを再度決定した。マトヴィチOLaNO代表は嘘をつき続けている」とコメントした。スリークSaS党首は記者会見を開き、「SaSは夏の間、連立政権に留まるか否かについて検討し、SaSの決定について夏が終わるまでに明らかにする」と述べた。

#### ◆政党支持率調査結果（7月1日）

世論調査機関Focusによる政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。

政党	Focus	2020年選挙
Hlas-SD（声・社会民主主義）	20.5%(38)	—
Smer-SD（方向・社会民主主義）	14.4%(26)	18.29%
SaS（自由と連帯）	9.6%(18)	6.22%
PS（プログレッシブ・スロバキア）	9.1%(17)	※6.96%
Sme rodina（我々は家族）	7.6%(14)	8.24%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	7.1%(13)	25.02%
Republika（共和国）	6.8%(12)	—
KDH（キリスト教民主運動）	6.7%(12)	4.65%
Aliancia（同盟）	4.1% (-)	—
SNS（スロバキア国民党）	4.0% (-)	3.16%
LSNS（我々のスロバキア）	3.3% (-)	7.97%

Za ludi (人々のために)	2.1% (-)	5.77%
------------------	----------	-------

※PS/Spolu としての得票率。PS は、2020 年国会総選挙に Spolu(共に)と政党連合を形成して参加した。

## 外 政

### ◆安全保障に関する国際会議「GLOBSEC 2022 Bratislava Forum」

6月2～4日、ブラチスラバにおいて安全保障に関する国際フォーラム「GLOBSEC 2022 Bratislava Forum」が開催された。

2日、チャプトヴァー大統領は演説の中で、「ウクライナのEU加盟に対する支持を改めて表明する。ロシアの侵攻が終わるまでウクライナの復興を待つことはできない」と述べるとともに、「エネルギー供給源多様化のための投資を怠ると、我々のレジリエンスは更に弱体化する。平和と自由は無料で手に入れることはできない。NATO東翼を更に強化すべきである。NATOの新戦略概念は新たな現実を反映すべきである。ロシアは脅威であり、集団安全保障がNATOの主目的である」と強調した。

ゼレンスキー・ウクライナ大統領はオンライン演説を行い、「欧州の自由が保護されるか否かは、ウクライナの戦場で決定される。そのため、ウクライナに対する更なる武器供与が必要とされている」と述べるとともに、「ウクライナの港湾の封鎖は全世界の食糧安全保障の脅威であり、これを解決できなければ、アフリカ及びアジア諸国での政治的混乱を引き起こし、さらには欧州での移民危機を招くことになる」と強調した。

フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長は演説の中で、「ウクライナにEU加盟の可能性を持たせることは我々の道徳的義務であるが、加盟に向けた『近道』や『手荒な手段』を受け入れることはできない。どのようにウクライナを支援するかは、我々次第である。ウクライナがどれだけ迅速に改革を行うかは、ウクライナ次第である」と述べた。

ヘゲル首相は討論会において、「民主世界はプーチンの本性について長い間忘れていた。ロシアのウクライナ侵攻は我々を目覚めさせることになった。他国への侵略が無意味であることを全ての独裁者に知らしめる必要がある」と述べた。

### ◆スロバキア国会副議長等の台湾訪問（6月8日付TASR通信）

ラウレンチーク・スロバキア国会副議長を団長とするスロバキア代表団は、6月5日から10日にかけて台湾を訪問している。7日、台湾の蔡英文総統は、台北の総統府においてスロバキア国会議員他の代表団と面会した。蔡総統は、双方の良好なバイ関係の構築を継続することを約束した。また、蔡総統

は、台湾とスロバキアの双方がスロバキアに到着したウクライナ避難民支援の分野で協力していることにも触れた。

ラウレンチーク国会副議長は、パンデミック中の医療用具供給及び雇用と投資の分野での貢献について台湾に対して謝意を表明した。

ドロバ・ブラチスラバ県知事は、スロバキア代表団がブラチスラバ県と高雄市との間の協力協定に署名するつもりであると述べた。

## 経 済

### ◆5月の物価上昇率（6月15日付経済新聞）

スロバキア統計局によると、5月の消費者物価は前年同期比で12.6%上昇し、2000年6月以降で最も高い上昇率を記録した。中でも、自動車用燃料及び潤滑油は36.8%、外食・サービス費は19.9%、食料品は16.6%、住居・水道・電気・ガス及びその他燃料は15.6%、それぞれ価格が上昇した。専門家は、今年の物価上昇率は10%になると推定している。

### ◆ロシア産ガス供給量の減少（6月20日付TASR通信）

6月20日、スロバキアのガス企業SPPのシェベスタ広報担当は、「露ガスピロム・エクスポート社からの情報によると、同日のロシア産ガスの供給量は、6月18～19日に引き続き、契約で合意されている量の半分になる見通しである」と述べつつ、「ガス供給の減少はSPPの消費者に影響しない。ノルウェー産ガス及びLNGの供給契約により、SPPの消費者のニーズの約65%をまかなうことができる」と付言した。

ドイツ及びチェコを經由してスロバキアに輸送される露産ガスの供給量は、ここ1週間で減少傾向にある。ガスピロムは、EUの対露制裁の影響により技術的な問題が生じているとしてガスの供給量の減少を正当化しているが、専門家はガスピロムの主張に否定的な見解を示している。ウクライナを經由してスロバキアに輸送される露産ガスの供給量も減少している。

### ◆家庭向けガス料金引き上げに関するスリーク経済相の発言（6月17日付ブラウダ紙）

6月16日、スリーク経済相は臨時国会において、スロバキア最大のガス企業SPPの来年以降の家庭向けガス料金の価格は契約形態に応じて20%又は42%上昇し、また、インフレ率もガス価格に反映されると述べた。スリーク経済相は、「今年8～12月にSPPと4年契約を結ぶ消費者については、2023年のガス価格は20%及びインフレ率分上昇し、2024～2025年はインフレ率分のみ上昇する。1年契約を結ぶ消費者については、2023年

のガス価格は42%及びインフレ率分上昇する」と述べた。

スリーク経済相は、「スロバキアで2番目に大きなガス企業（Innogy）の契約条件もSPPと同様のものになる見込みである」と述べた。

（了）

# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

